

## 数 学 科

報告者：武井 文音

### 1 課題

本校生徒の特徴として、これまでの学習経験から数学に対して苦手意識を持っている生徒が多く、意欲的に数学の学習に取り組む生徒が少ないことが挙げられる。多くの生徒にとって、数学を学ぶ意味が理解できていないことや、学習に取り組んでもなかなか成果が得られずに苦手意識が芽生えてしまい、勉強すること自体を諦めてしまうことが課題であった。

### 2 目標

数学科における読解力とは、「式やグラフ、図など数学的な表現を解釈する力」と、「自分の考えを式やグラフ、図を用いて数学的に表現する力」である。生徒の習熟度や授業展開に応じてそれぞれの読解力の向上を目標とした。

### 3 具体的方策

本校数学科は1学級を2展開した習熟度指導を行っている。

標準クラスにおいては、演習時間を多く確保して一人ひとりの生徒としっかりと向き合い、数学に対する苦手意識の払しょくと基本的な知識・技能の定着を目指した。また、基本的な内容の問題であっても、問題で問われていることや数式が表していることを丁寧に読み取る活動を取り入れた。

発展クラスにおいては、入試問題などの発展的な問題を扱い、どのようなことが問われているのか読み取る活動や、解答の流れを日本語で確認した後それを数式で表す活動を取り入れ、2つの読解力の向上を目指した。

### 4 結果

標準クラスにおいては、生徒との関わりの中で個性の把握や信頼関係の構築に努めることができ、一人ひとりに合った声掛けや支援を行うことができた。その結果、問題に粘り強く取り組み、定期考査でも得点を伸ばす生徒が増えた。

発展クラスにおいては、新出問題にも積極的に取り組む姿が見られ、授業で扱った基本事項を基に、どのようなことが問われているのか、授業で扱った問題とどこが異なっているのか考えることができた。

### 5 次年度に向けての課題

本校生徒に強く根付いていた数学に対する苦手意識が多少改善されたように感じる。基本的な問題に対してもすぐにできないと諦めて取り組もうとしない生徒も多かったが、まずはしっかり教科書を見直して考えてみる姿が見られた。また、発展クラスでは複雑な問題も学び合いながら解答を作ることができた。次年度以降は、基本的な知識・技能と並行して読解力や応用力をどのように育成していくかが課題となる。